「私の記録　自分史ノート」について

本市における自分史の取り組みとしては、昭和54年(1979)に開基80周年記念事業として「自分史年表」を発行したのが始まりで、平成元年には開基90周年記念事業として士別市史抄「私たちの歩み」、平成11年(1999)に開基100年記念事業として「自分史ノート」が全市民に配布されております。

そしてこのたび、「士別市史第三集」及び写真集「写真でつづる士別の歩み」の発刊に合わせて、「私の記録　自分史ノート」を作成し全戸配布することとなりました。

歴史的にみると、「自分史」という言葉に市民権が与えられるようになったのは、歴史家色川大吉の『ある昭和史 - 自分史の試み』（昭和50年(1975)）の出版以後で、無名の人々が真実を表現することに、歴史としての意味があることがはじめて主張されたからであると言われています。

自分史を書くことの目的は、完成させることではなく、自分史を通じて「伝えたいこと」を形にし、「誰かに」伝えることで、「平凡に暮らしてきた人が、自身のそれまでの生涯を書き綴ったもの」という側面が強く、1980年代以降には、自分史を一冊の書籍として発行する人が増えています。

このたびの自分史ノートにおける年表は、昭和元年（1926）から平成27年（2015）までの90年間としましたが、自分の生年や先代にさかのぼる場合には、用紙を自由に加えてご活用ください。

凡例

1. 自分史ノートは、世界・日本・北海道、士別市・朝日町の出来事と自分の記録が記載できるようになっています。
2. 世界・日本・北海道、士別市・朝日町については、その時代背景などを知る上で必要な出来事を記載しました。
3. 作成に当たっては、「新士別市史」、「士別市史抄―私たちの歩み」、「続朝日町史」、「北海道の20世紀」（北海道新聞社）を主な参考文献資料として使用しました。